

小・中学校における 租税教育指導事例集

平成 30 年 3 月

登米市租税教育推進協議会

発刊に寄せて

今年度も登米市租税教育推進協議会並びに租税教育推進協力者の皆様のご尽力により、ここに「平成29年度租税教育指導事例集」が刊行されますことをたいへん喜ばしく思います。

租税制度は、国の運営の根幹を支える制度であり、私たちが納めた税金は、「国民の健康で豊かな生活」を実現するために、国や地方公共団体が行う活動の財源となります。この税金の使い道として、私たちの安全を守る警察・消防や、道路・水道の整備といった公的サービスや、教育・福祉・医療・年金など社会での助け合いのための活動に使われているところです。

このような中で市内小・中学校において、租税教育について学習し、興味をもち、見聞を深め、理解していくことは、誠に有意義であり、大事な取組と考えています。小・中学校の授業の中で、租税教育指導の進め方について、研究及び実践を行い、具体的に様々な取組事例を紹介する本書は、極めて有効な租税教育の実践のための参考書であると認識しており、その効果が大いに期待されるものです。

本年度は、小学校6校、中学校2校の実践事例が紹介されています。いずれの学校でも児童生徒を対象にわかりやすく「税」を理解させるため、各種の工夫を凝らして取り組んでおり、今後の租税教育活動に大変参考になる内容となっています。各小・中学校におかれましては、ここに紹介されています租税教育実践事例を、今後ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

結びに、各小・中学校の授業で、租税教育の推進にご指導いただいた先生方のご努力とご支援、並びに本事例集の取りまとめに当たられました佐沼税務署の皆様のご尽力に心から感謝を申し上げ、発刊に際してのあいさつとさせていただきます。

平成30年3月

登米市租税教育推進協議会会長
登米市教育委員会教育長

佐藤 信男

目 次

小学校指導事例

① 第6学年	新田小学校 教諭 高 橋 慎	1
② 第6学年	米谷小学校 教諭 阿 部 亘 平	5
③ 第6学年	石森小学校 教諭 高 橋 寛	9
④ 第6学年	浅水小学校 教諭 佐 藤 眞 紀	14
⑤ 第3学年	西郷小学校 教諭 佐々木 芽衣子	19
⑥ 第5学年	柳津小学校 教諭 佐 藤 育 子	23

中学校指導事例

① 教務主任	石越中学校 教諭 箱 石 雄 悟	26
② 主幹教諭	津山中学校 教諭 白 石 善 郎	28

平成29年度 租税教育推進協力者	31
------------------	----

平成29年度 登米市租税教育推進協議会 構成員名簿	32
---------------------------	----

歴代租税教育推進協力者	33
-------------	----

平成29年度 租税教育実践事例（第6学年）

登米市立新田小学校

教諭 高 橋 慎

- 1 単元名 「私たちの生活と政治」
小単元名 「子育て支援の願いを実現する政治」

2 小単元の目標

政治は国民生活の向上と安定を図るために大切な働きがあることを理解し、我が国の政治の働きと国民生活との関わりを考えようとする。

3 単元について

本単元は学習指導要領の目標「（2）日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。」の内容について学習する単元である。

4 児童の実態（男9名、女7名、計16名在籍）

本小単元の学習を指導するに当たって、実態調査を行ったところ、100%の児童が税金という言葉を知っていた。また、「税金という言葉聞いて思い浮かべる税金は何か。」という問いに対しては、「消費税」と答えた児童が100%であった。また、「所得税」が1名、「住民税」1名、「たばこ税」が5名の児童が答えた。税金という言葉は知っているものの、生活の中でどのように使われているのかを本小単元を通して指導していきたい。

5 指導計画（本時6/7時）

時	主な学習活動	指導上の留意点
1 ・ 2	〔児童センターの見学〕 ・利用者のインタビューから、子どもをもつ親の願いなど、分かったことをまとめる。	○登米市にある子ども支援施設と関連して指導し、児童の興味・関心を高める。
3	〔あすばるの活動〕 ・あすばるの活動を調べる。 ・季節ごとのイベントを知る。 ・運営している人たちはどのような目的でイベントなどの活動を行っているのかを考える。 ・施設利用料がなぜ無料なのかを考える。	○子ども支援施設を利用したことのある児童の経験をもとに学習の意欲付けを行う。 ○なぜ利用料が無料なのかを考えさせ、次時の学習につなげられるようにする。

4	〔市役所の働き〕 ・市役所の働きについて調べる。 ・住民の願いがどのように反映されているのかを考える。	○登米市役所の働きも関連させて指導を行う。 ○計画案や予算案の作成についての理解を深められるように市役所の方のインタビューを活用する。
5	〔市議会の働き〕 ・市議会の仕事についてまとめる。 ・市議会議員は選挙によって選ばれることを理解する。	○デジタル教科書を活用し、市議会議員の仕事の内容や役割について視覚的に捉えられるようにする。 ○立候補できる年齢なども押さえる。
6 本 時	〔税金の働き〕 ・税金の働きを知り、税金の必要性や大切さを理解する。 ・学校は税金が使われていることを知る。 ・税収の総額や種類を知る。	○税金の必要性を実感できるようにDVDを活用して指導を行う。 ○税金が身近な所で多く使われていることを捉えさせるため、登米市内の施設を写真で提示する。
7	〔まとめる〕 ・学習活動をフローチャートにまとめる。 ・税に関する絵はがきをかく。	○フローチャートに整理したり、絵はがきをかいたりし、学習の理解を深めさせていく。

6 本時の学習

(1) 題材名

税金の働きを知ろう

(2) 本時の目標

税金の働きを知り、税金の必要性や大切さを理解する。

(3) 学習過程

段階	主な学習活動 C：児童の反応	支援・留意点	準備物
導 入	1 ゲストティーチャーの紹介 2 本時の学習課題を知る。 税金の働きについて知ろう。	○本時の課題を明確にし、学習の方向付けを行う。	
展 開	3 税金の種類を知る。 (1) 知っている税金の種類を発表する。 C：消費税、住民税、たばこ税。	○実態調査を生かし、意図的に指名をする。	

展 開	(2) 国税,地方税について知る。 (3) 日本の税収はおよそ57兆円であることを知る。 C:多い。すごい数字だ。 (4) 1億円のレプリカを持ち,実際のお金の重みを実感する。 C:思っていたよりも重い。	○税収の多さを実感できるように1億円のレプリカを持つ活動を取り入れる。	1億円 レプリカ
	4 税金の使われ方を知る。 (1) 税金の使われている施設とそうでないものを分類する。 (2) 学校で使われるものには税金が使われていることを知る。 (3) 学校に税金が使われなくなった場合,どのくらい月謝が掛かるかを知る。 C:税金が使われないと,月に7万円もかかるのにびっくりした。	○登米市内の施設や店舗の写真を提示し,税金は身近な問題であることをつかませる。 ○税金が多く使われているということを捉えさせるため,月謝で考えるとどのくらいかを提示する。	施設写真
	5 DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴する。 C:ごみがあふれたり,道路がなおしたりできないのは不便だ。 C:税金って大切なんだ。 C:税金がなくなると消防や警察も有料になるのに驚いた。	○税金の必要性について考えられるように ・消防署 ・信号 ・道路の修理,公園の維持 ・警察 がどのように変わるかに着目させる。	大型TV PC DVD
	6 国民の三大義務を知る。	○納税も国民の義務に入っていることを捉えさせる。	
	7 税金クイズに答える。 (1) 所得税が掛かるものは? (2) 消費税が掛かるものは? (3) 実際にある税金は?	○税金クイズを行い,税金への関心を高める。	クイズ パネル

終 結	8 学習の振り返りをする。	○本時の学習を振り返り, 学習内容を深める。	
--------	---------------	------------------------	--

(4) 授業の様子



(5) 授業後の児童の感想

男児	租税教室を通して, 税金の種類が知ることができました。もし税金が無くなったら, 橋や信号が使えなくなったり, 町中のごみを処理できなくなったりすることが分かりました。教科書に載っていないことも知ることができて良かったです。
男児	租税教室では, 具体的にどんな税があるのか, 税金がどんな建物や場所に使われているかが分かりました。税金がとても大切なものであるということを改めて考えさせられました。
女児	租税教室で, DVDを見て, 税金が無くなるととても大変だということを改めて感じました。これからは買い物の時に税金のことを考えながら, 消費税を払いたと思います。
女児	租税教室で見たDVDを通して, 税の大切さが分かりました。税金で使われている物がなくなると毎日の生活がとても大変になると思いました。また, 1億円分の札束のレプリカを持つ体験では, 予想していたよりも重く, とてもびっくりしました。

租税教育実践事例(第6学年)

登米市立米谷小学校

教諭 阿部 亘平

- 1 単元名 わたしたちの生活と政治
小単元名 震災復興の願いを実現する政治

2 指導にあたって

(1) 単元について

本単元では、学習指導要領の目標「(2)日常生活における政治の働きとわが国の政治の考え方及びわが国と関係の深い国の生活や国際社会におけるわが国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。」の内容について学習する。

児童の多くは、なぜ税金を納めなくてはいけないのか、税金はどのように使われているのかについて詳しく理解していない。そこで、本単元の学習を通して私たちの生活は税と深く関わっており、豊かな暮らしを実現するためには税金はなくてはならないものだということを気付かせたいと考える。

3 単元目標

(1)社会的事象への関心・意欲・態度

税金の働きについて関心をもち、意欲的に調べようとしている。

(2)社会的事象についての知識・理解

税金の働きや必要性について理解することができる。

4 学習計画

時	学習内容	指導上の留意点
1	【東日本大震災の発生】 ・東日本大震災発生後の復旧の様子に関心を持ち、学習問題をつくる。	・震災に関する学習に抵抗がある児童がいらないかを事前に確認する。資料をもとに、被災者の気持ちに気付かせる。
2	【東日本大震災への緊急対応】 ・東日本大震災発生直後の、市や県、国の取り組みについて資料から読み取り、相互に協力し合っていることについて考える。	・震災発生から、市や県、国が対応するまでの時間が非常に短かったことや、国全体で協力体制を整えたことをとらえさせる。

3	【災害復旧に向けた国の支援】 ・災害復旧の取り組みは、国の政治の働きによるものであることを理解する。	・震災発生から、短期間で予算や法律が決まったことに気付かせる。 ・市や県、国が連携して取り組んでいることに気付かせる。
4	【税金について調べる】 ・なぜ税金は納めなければいけないのか、税金の使われ方について調べ、標語にまとめる。	・I C Tを活用して調べ学習に取り組む。
5 本時	【税金の働きを調べる】 ・災害復旧のための補正予算の費用が税金から出ていることを知り、税金の大切さについて考える。	・税金がどのような用途に使われているのかを知るとともに、税金の必要性について考えさせる。
6	【復興を願う市や市民の取り組み】 ・復興に向けての気仙沼市の計画や取り組みについて、関心をもって調べる。	・気仙沼市の被害の状況から震災前の生活に戻るために必要な物を考えさせる。
7	【様々な支援と絆】 ・復興に向けた様々な取り組みの中で、多くの支援があったことを理解する。	・被災地を励まそうとする多くのスポーツ選手や芸能人が被災地を訪れ、イベントを行ったことを紹介する。
8	【学習のまとめ】 ・学習してきたことを振り返り、新聞にまとめる。	・これまで学習してきたことをノートやワークシートをもとに振り返らせる。 ・標語にまとめ、コンクールに応募する。

4 実践にあたって

《税に関する標語コンクールへの応募》

税金について正しく理解している児童が少なかったため、インターネットを活用して、税金について調べる活動を取り入れた。税金は私たちの生活に関わっていること、自分たちも税金を納めていることに気付くことができた。そして、それぞれの学んだことを標語にまとめ、コンクールに応募する活動に取り組んだ。

【税に関する標語 作品例】

- あなたの町の その税金 豊かな国の第一歩
- 税金で 輝く未来と 大きな夢
- 税金は 未来につながる お助けヒーロー

5 本時の学習について

(1) 指導について

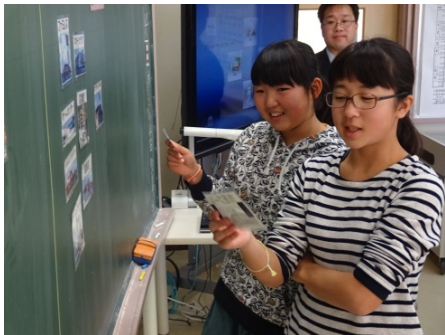
【本時の目標】

- ・税金の働きを知ることにより，税金の必要性や大切さを理解する。

【評価基準】

- ・税金の働きについて関心をもち，意欲的に調べようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・税金の働きについて正しく理解している。(知識・理解)

(2) 学習過程

段階	主な学習活動	学習の様子
導入 5分	1 本時の学習課題を知る。 税金の働きについて考えよう。 2 外部講師の紹介をする。	・講師の青山さんを紹介する。 
展開 33分	3 講師の方の話を聞き，税金について考える。 ○知っている税金を挙げる。 C：消費税，所得税・・・など ○一億円のレプリカを持ち，量や重さを体験する。 C：予想していたよりも重い。 ○税収が約57兆円であることを知る。 C：一億円が57万個分！ ○税金を払う必要があるかどうか発表する。 C：払う必要がある・・・19人 C：払う必要はない・・・0人 ○税金の使われ方を考える。 ・税金が使われているものとそうでないものにカードを分ける。 ○DVD『マリンとヤマト不思議な日曜日』を視聴し，税金の必要性を知る。 C：税金がなくなったらどうなるかを知る。 C：消防車も救急車も，交番の利用も有料になってしまう。	・事前に調べたことをもと，発言をうながす。  【1億円は予想以上に重たい！】  【信号機って税金かな？】

	○国民の三大義務について知る。 C:税金を納めることは国民としての義務だったんだ。	 【DVDを鑑賞して,税金の必要性について考えた】
まとめ 7分	4 本時を振り返り質問や感想を発表する。 C:最も税率の高い税金は何か。 C:税金が無くなってしまったら,これまで当たり前だったことが当たり前ではなくなってしまう。	

6 租税教室を終えての児童の感想

- 税金について勉強するまでは, 税収は大体1億円くらいだと思っていたけれど, 57兆円も国民から納められていることを知って驚いた。
- 税金は, 自分のためにもなるし, みんなのためにもなっているので, 改めて払わなくてはいけないものと思った。
- 今の生活を保つためにも税金は必要だと思う。
- 税金は夢のある国を作るために必要なものなんだと思う。
- 正直, 税金がなくても日本はお金持ちの国だと思っていた。けれど, 税金によって国は成り立っていることを知った。
- 消費税8%! 中途半端だから必要ないと思っていました。けれどDVDを観て, 税金がなくなった世界は恐ろしいと感じました。
- 自分のため, 周りの人のための税金だと思う。
- 税金でみんなが支え合って生活できているんだと思った。
- 1年間の税収57兆円を重さに変えると…570万kgに驚いた。
- 税金の無い世界では, 今自分たちがしている当たり前が制限されてしまいます。本当に税金が無い世界になってしまったらと思うとぞっとします。

平成29年度 租税教育実践例（第6学年社会科）

登米市立石森小学校

教諭 高 橋 寛

1 単元名 震災復興の願いを実現する政治

2 単元について

本単元は、地方公共団体や国の政治の働きに関心をもち、国民生活には地方公共団体や国の政治が反映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解するとともに、わが国の政治の働きと国民生活との関わりを考え、学習を進める単元である。

学習内容としては、地震等の災害復旧・復興の取組には、地方公共団体や国の政治の働きが反映していることや、災害などの非常時に備えて地方公共団体や国は日頃から協力して準備していることなどについて、資料を活用したり、身近な生活の中から調べたりする中で、政治が国民生活を安定させるために大切な働きをしているということを理解していく。

その中で復興や復旧に向けた予算について調べ、費用には税金が使われたことを知り、税金の果たす役割や使い道などについても学んでいくものである。

3 児童の実態（男17名 女6名 計23名）

ほとんどの児童が税金という言葉を知っていた。また、税金の種類については、消費税や、所得税など、よく聞く税金は出てきた。現在の消費税8%が将来10%に上がるということも知っており、「どうして税金が上がるのか」「上がったらまた払うお金が多くなる」などという声が聞かれ、税についての関心は高かった。

税金の使途については、「みんなの暮らしのため」「震災の時に道路などを直したのに使われた」「国会議員さんの給料」「役場の人の給料」などの意見が出たが、税の仕組みについてはよく分からない様子だった。そこで、自分たちの暮らしのためには、税金が必要だということを理解させ、税金についての正しい知識を身に付けさせたいと考えた。

4 指導の着眼

児童の実態を踏まえて、次の点に留意して指導にあたる。

- ① これまでに学んだ日本の歴史の中で「租、庸、調」「年貢」「地租」などの税が古くからあったことを想起させ、税への関心を高め、理解をより深める。
- ② 国民の義務として、納税の義務があるということを学び、税の必要性を押さえる。
- ③ ゲストティーチャーとして法人会の方を迎えて、税金について詳しい話を聞き、その意味や仕組み、使い道などを理解させ、税に関する標語や絵はがきなどを作成する。

5 単元目標

地方公共団体や国の政治の働きに関心をもち、国民生活には地方公共団体や国の政治が反映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解するとともに、わが国の政治の働きと国民生活との関わりを考えようとする。

6 指導計画（8時間扱い 本時4／8）

時	おもな学習活動	指導上の留意点
1	○東日本大震災の発生 ・震災直後と数年後の町や漁港の様子を比べて、気付いたことを話し合う。	・震災直後の写真や新聞記事などを見せ、被害の大きさについて考えさせる。 ・実際に体験したことを基に話し合わせる。
2	○東日本大震災への緊急対応 ・地震直後の市、県、国の取組を調べる。	・写真資料を基に、市の取組を具体的にとらえさせる。 ・給水車や道路の復旧など、体験したことを出し合い、考えさせる。
3	○災害復旧に向けた国の支援 ・災害復旧や復興に向けた国の取組を調べ、費用がどこから出ているのか考える。 ・復興庁の設置と、復興にかかる費用には税金が使われていることを調べる。	・年表から予算や法律などの政治の働きを時間的に捉えさせ、予算や法律に基づいた具体的な取組を読み取らせる。
4 本 時	○私たちのくらしと税金 ・税金の働きを知り、税金がわたしたちの生活の必要性や大切さを理解する。	・法人会の方をゲストティーチャーに迎えて税金の役割の重要さをとらえさせる。
5	○復興を願う市や市民の取組 ・市では震災復興計画を作り、計画に基づいて復興に向けた様々な取組を行っていることや、新しいまちづくりに向けて、みんなで協力して取り組んでいることなどを調べる。	・年表や市役所の方の話を基に、復興に向けて市がどのような計画を立て、どのような取組を行ってきたのか、具体的に捉えさせる。 ・自分達の体験や、経験を想起させて、詩の取組などを具体的に調べさせる。
6	○様々な支援と絆 ・復興に向けた様々な取り組みについて調べる。	・写真から様々な国や地域、様々な立場の人々、ボランティアが被災地を支えたことに気付かせる。
7	○調べたことを項目で整理しまとめよう ・震災直後の国や県、市の取組、災害復興に向けた取組など、項目ごとに調べたことや分かったことをまとめる。	・新聞にまとめる際に、今まで調べてきたことを項目ごとに整理して、どの項目も政治の働きが深く関わっていることをおさえるようにする。
8	○公園づくりについて話し合おう ・どのような公園がいいのか、自分の願いを出し合ったり、いろいろな人の話から、どのような立場があるか考えたりする。	・子供やお年寄りなど、いろいろな人が公園に対してどのような願いをもっているかを考えさせる。

7 本時の学習

(1) 小単元名 「震災復興の願いを実現する政治―税金の働きを調べる―」

(2) 本時のねらい

税金の働きを知ることで、税金がわたしたちの生活のための大切な役割を果たしていることに気づき、税金の必要性や大切さを理解する。

(3) 準備物

・学習資料「わたしたちの暮らしと税金」 ・PC ・テレビ

(4) 学習過程

段階	●学習活動 Gゲストティーチャー ・児童の反応	○指導上の留意点 ◇評価
つかむ 5分	● 本時の学習課題を知る。 税金の働きについて考えよう。	○税金の働きや仕組みについて知り、自分たちの生活とどう関わっているかについて学ぶことを知らせる。
考える 35分	●ゲストティーチャーの話を聞き、税金について考える。 ●知っている税金を挙げる。 G：皆さんの知っている税金には何がありますか？ ・消費税 ・自動車税 ・ガソリン税 ・所得税 G：日本の消費税は今何%？ ・8% ・これから10%になる。 ・消費税は昔なかった。 ●税金が使われているもの、使われていないもののクイズをする。 G：これからいろいろなお店などの写真を配るので、税金が使われているものといないものに分類しよう。 ・学校は税金が使われているよ。 ・震災後に道路を直すのに税金だった。 ・スーパーを直すのにも税金使ったのかな？ ・公共機関だけじゃないかな？ ・公園は市が作っているから税金？ ・復興の時の工事などは税金だったから、信号も税金かな？	○税金には種類（国税と地方税や直接税と間接税など）があることをつかませる。  【税金の種類について知る】  【税金が使われているかどうかクイズ】

	●学校と税金の関係を考える。 G：学校にもたくさんの税金が使われています。 ・机やいすも税金なんだ。 ・7万円もかかるの。 ●税金を払う必要があるかどうか発表する G：税金は払わなければいけないですか？ ・払わなければいけない・・・7人 ・払わなくていい・・・0人 ・払わなくていいなら払わない・・・18人 ●鑑賞教材「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を鑑賞する。 G：ビデオを見てどうでしたか？ ・税金がないと大変。 ・いろんなところに使われていることが分かった。	 【税金を払う必要があるか】 ○税金がないとどうなるかを知らせる。  【ビデオで税金がなかったら場合を学ぶ】
ま と め る 5 分	●税金を払う必要があるかどうか再度確認する。 G：税金は払う必要がありますか？ ・払う必要がある・・・12人 ●1億円のレプリカを持ち、量や重さを体験する。 ・重い ・こんなに量があるの ●感想を発表する。 ・税金がないと、学校や道路や信号がなくなって大変なことが分かった。 ・税金が自分たちの暮らしに役立っていることが分かった。	○同じ発問を行い、税金の役割について自分の認識の変化をとらえさせる。  【1億円の重さと量を体感】 ◇税金の必要性や大切さを知り、納税の義務について考えることができたか。

8 児童の感想

- ・消費税が高くなって面倒だと思ったけど、払わないと道路の修理ができなかったり、信号が動かなかったりして生活が大変になると分かった。自分達の暮らしのために税金は必要だ思った。
- ・税金がどのように使われているかがよく分かった。しっかり税金を納めて、暮らしをより豊かにするために使ってほしいと思った。
- ・税金は払いたくないと思っていたけど、払わないと自分達の暮らしが出来なくなることが分かった。

9 その他の税に関係する取組

租税教室を行うにあたり，社会科の学習以外でも税金に対する関心を高めるために，税に関する標語コンクールや税に関する絵はがきコンテストに作品を応募した。応募する際に資料で税金について知ることによって，税金が何に使われているのかを資料などから知ることができ，児童の関心を高めることが出来た。

【税に関する絵はがきコンテスト応募作品（一部）】



平成29年度 租税教育実践例（第6学年社会科）

登米市立浅水小学校

教諭 佐藤 眞紀

- 1 単元名 わたしたちの生活と政治
子育て支援の願いを実現する政治（税金の働き）

2 指導にあたって

（1）単元について

本単元は、学習指導要領の内容（2）ア「国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること」を受け、地方公共団体や国の政治が国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解させることをねらいとしている。

ここでは、子育て支援に関わる公共施設の建設を取り上げ、市民の要望を受けて公共施設の建設がどのようなプロセスで行われるのかや、その費用にはどのようなお金が使われているのかという観点から、政治について目を向けさせていきたい。そのために、児童にとってなじみの深い浅水ふれあいセンターを例に挙げながら、政治が自分たちにとって身近なものであることを実感させていく。さらに自分たちが学校で毎日のように使っている机や椅子などは税金で賄われていることにも触れ、税金にはどのようなものがあり、誰が納め、どのようなことに使われているのかについて理解させる。

これらの学習活動を通して政治が自分たちの生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解させていきたいと考える。

（2）児童の実態（男8名 女13名 計21名）

ほとんどの児童が、「税金」という言葉を知っており、知っている税金の種類として挙げたものは「消費税」が多かった。また、税金は「みんなのために使われるお金」という認識はもっており、税金が自分たちの暮らしのために使われているということは理解できている。しかし、必要なものだと理解していても、実際の場面となると、「自分で払うお金は少しでも安い方がいい。」「なぜ消費税を払うのか。」という声も聞かれている。

このことから、自分たちの暮らしのために税金は必要だという理解をさらに深めさせるとともに、もし税金がなかったら自分たちの暮らしはどうなるのかということを考えさせ、税金について正しい知識を身に付けさせたい。

（3）指導の着眼

○税についての理解が一層深められるよう、佐沼税務署の方にゲストティーチャーとしておいでいただき、専門的な立場から税について指導していただく機会を設ける。

○税金がない生活を自分たちの日常生活に置き換えて実感させるためにDVDを活用し、税金が自分たちの生活に大きく関わっていることを確認した上で、次単元「国民の三大義務（納税）」の学習へと関連付ける。

○税金に対する関心を高めるために、「税に関するパンフレット」を活用させたり、「税に関する標語」、「税に関する絵はがきコンクール」等への作品応募の機会を利用したりする。

3 単元の目標

○地方公共団体や国の政治の働きに関心を持ち、国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが

反映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることが分かるとともに、我が国の政治の働きと国民生活との関わりを考えようとする。

- 地方公共団体や国の政治の働きに関する社会的事象から学習問題を見だし、公共施設を見学したり聞き取り調査をしたりするなどの学習計画を立てて、施設の利用者や市役所の担当者などの話、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることについて思考・判断したことを適切に表現する。

4 単元の評価規準

○社会的事象への関心・意欲・態度

- ①子育て支援事業など、地方公共団体政治の働きに関心をもち、意欲的に調べようとしている。
- ②我が国の政治の働きと国民生活との関わりを考えようとしている。

○社会的な思考・判断・表現

- ①子育て支援事業など、地方公共団体の政治の働きについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
- ②地方公共団体が市民の願いを取り入れながら国と協力していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために重要な働きをしていることについて考え、適切に表現している。

○観察・資料活用の技能

- ①子育て支援事業など、地方公共団体の政治の働きについて、子育て支援施設や市議会などを見学したり、各種資料を活用したりして、必要な情報を集め、読み取っている。
- ②調べたことをノートや作品などにまとめている。

○社会的事象についての知識・理解

- ①国民生活には地方公共団体や国の政治が反映していることを理解している。
- ②政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。

5 指導計画（8時間扱い 本時6時間目）

時	おもな学習活動	指導上の留意点
1	○児童センターの見学 ・写真や画像から子育て支援センターの様子を知り、幼い子供をもつ親の願いについて話し合う。	・資料を活用して、児童の興味・関心を高める。
2	○みんなの願いと児童センター ・子供支援施設について疑問に思うことについて話し合い、学習問題を作る。	・浅水ふれあいセンターのような住民のための施設が、なぜ無料で利用できるのかという疑問から学習問題につなげる。
3	○あすばるの活動 ・写真資料やあすばる所長の話を読み取り、どのような活動をしているのかを調べる。	・教科書に取り上げられている「あすばる」についての資料に加えて、浅水ふれあいセンターを利用した経験を想起させる。
4	○市役所の働き ・市役所を見学したり、市役所の人話を聞いたりして、市役所の働きについて調べる。	・計画書や予算案を作るのは市役所の仕事、それらを決定するのは市議会の仕事であることを理解させ、次時の学習につなげる。
5	○市議会の働き ・資料を活用して市議会の仕事について調べる。	・資料を活用して、市民、市役所、市議会、国会や関係省庁の関係を捉えさせる。

6 本 時	○税金の働き①<租税教室> ・税金の種類や使われ方についての話を聞き、税金の役割について考える。	・佐沼税務署の方をゲストティーチャーに迎えて、専門の立場から指導していただくことにより、税金が自分たちの生活を支えるために重要な役割を果たしていることに気付かせる。
7	○税金の働き② ・子育て支援センターを建設、運営するための費用がどこから出ているのか考える。	・前時に学習したことを生かし、公共施設の建設や運営にどのくらいの金額がかかっているのか考えさせる。
8	○まとめる ・政治の働きについて、分かったことや考えたことをまとめる。	・分かったことや考えたことを自分の言葉で表現させる。

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

税金の種類や使われ方を知り、税金が自分の生活に重要な役割を果たしていることを理解する。

(2) 授業の流れ

段階	学 習 活 動	学 習 の 様 子
つ か む 3 分	1 本時の学習課題を確認する。 自分たちの生活と税金の関わりを考えよう。 2 佐沼税務署からのゲストティーチャーを紹介する。	
広 げ る 3 5 分	3 税金がどんなふうに使われているか考える。 ○知っている税金の名前を挙げる。 ○自分たちに関係のある税金は何か考える。 ○その税金を全て集めるといくらになるか予想する。 ○1億円が57万個分になることを計算し、1億円のレプリカを持って、その重さを体験する。 4 学校と税金の関わりを考える。 ○毎日使っている教科書が無償なのは税金の働きによることを知る。	・税金の種類や、「地方税」「国税」について知る。 ・消費税の税率について確認する。 ・国の税収が57兆円であることを知る。  ・教科書の後ろに書かれている自分たちへのメッセージを読む。

	○税金がなければ，学校で勉強するのに，どれだけお金がかかるか予想する。 5 身の回りの物と税金との関わりについて考える。 ○いろいろな施設を，税金が使われている物と使われていない物に類別する。 6 DVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を視聴し，税金の大切さについて考える。 ○税金がなくなったら，自分たちの暮らしがどうになってしまうか考える。	・小学校では1か月に7万円かかり，その後も増加していくことを知る。  ・写真の建物がどちらに該当するか，ペアで考え，黒板上に類別する。  ・火事になっても，消火に多額のお金がかかってしまう。 ・街がごみだらけになってしまう。 ・道路や橋を渡るのにお金を払わなければならないになってしまう。
ま と め る 7 分	7 国民の義務である税金の必要性について理解する。 ○税金を払うことが憲法で定められていることや，みんなのために使われていることについて確認する。	 ・税金は，一人のお金ではできないことを実現するもの。 ・自分も誰かの税金で支えられている。 【評価】 税金には自分たちの生活を支える大切な役割があることを理解することができたか。

8 児童の感想

- ・税金が何に使われているのかがよく分かりました。もし税金がなかったら、私たちの生活が大変になると思いました。
- ・税金には、消費税・市県民税・所得税などいろいろな税があり、その税の使われ方にそれぞれ意味があることが分かりました。
- ・税金が使われているものとそうでないものが分かりました。教科書や学校の物も税金が使われていました。
- ・11月に標語を作った時は、はっきりした意味が分からなかったけれど、今日の勉強で、税金が大事なものだとなりました。

9 税金に関する作品応募（クラス全員）

11月 第5回「税に関する標語」入賞作品

優秀賞 「考えよう くらしをささえる消費税」

佳作 「増税でも ぼくのこづかい変化なし」

1月 税に関する絵はがきコンクール



女性部会長賞作品



他の応募作品

平成29年度 租税教育実践例（第3学年）

登米市立西郷小学校

教諭 佐々木 芽衣子

1 題材名 わたしたちの暮らしと税金

2 題材の目標

税金がさまざまな方法で集められ、公共的な事業に使われていることに気付かせるとともに、公共施設の建設や地域の開発、公共サービスには税金が深く関わっていることを理解させる。また、国民生活の安定と向上を図るために、税金がいかに大切な働きをしているかを考えさせる。

3 児童の実態（男7名，女8名，計15名）

本単元に関する実態調査の結果は以下の通りである。

項 目	回 答
(1) 税金ということばを知っていますか。	・知っている(15) ・知らない(0)
(2) どんな種類の税金を知っていますか。	・消費税 ・酒税 ・たばこ税 ・家の税 ・土地の税 ・先生の給料
(3) 税金は何に使われていると思いますか。	・先生の給料。 ・みんなのために使われている。 ・学校 ・おじいちゃんやおばあちゃんの生活 ・分からない
(4) 税金を払いたいと思いますか。	・はい(6) ・いいえ(9)

実態調査から、全児童が「税金」ということばを知っていることが分かった。これは、9月に校外学習でスーパーマーケットへ行き、買い物体験をしたときに商品の値段の表示が2つあることに気付き、売り物には「消費税がかかる」ことを知ったためだと思われる。税金の使われ方として、国民の生活をよりよくするために使われているのだろうと考える児童が数名いたものの、税金が何のためにあるのか分からない児童も多くいた。以上のことから、本単元を通して、税金が国民生活の安定と向上を図るために大切なものであることを理解させ、学習を終えた児童全員に「税金を払いたい」と思わせられるようにしていきたい。

4 本時のねらい

税金の使われ方について理解し、税金の大切さに気付くことができる。

5 本時の評価規準

- ・税金の種類や使い道に関心を持ち、進んで調べようとしている。【関意態】
- ・国民生活の安定と向上を図るために、税金がいかに大切な働きをしているかを考えている。【思判表】
- ・税金の集め方や、その使われ方、納税の大切さを理解している。【知理】

6 指導に当たって

本時では、税金の種類を理解させ、税金によって国民の生活が成り立っていることや、税金がないと国民のくらしが不便なものになってしまうことに気付かせたい。そこで、本時では、ゲストティーチャーを招き、クイズやDVD視聴を通して税の必要性について理解させていく。

7 学習の流れ

学 習 内 容 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・学習の様子や児童の反応 ○留意点 ※準備物等
1 本時の課題を確認する。 税金がわたしたちの生活の中で、どのように使われているか考えよう。 2 ゲストティーチャーを紹介する。 3 税金の種類について知る。 (1) 知っている税金を発表する。 ○ どんな種類の税金を知っていますか。 ・消費税 ・土地 ・家 ・相続税 ○ 日本の消費税はいくらだと思いますか。 ・8% ・3% ・5% (2) 税収について知る。 ○ 1年間の税収はいくらあると思いますか。 ・みんなから集めるから1億円かな。	○ スーパーマーケットで消費税を払ったことを思い出させ、それらの税金がどのように使われているのか興味をもって課題を解決できるようにする。 ○ 「税金のプロ」の先生であることを伝え、児童が意欲的に学べるようにする。 ○ 児童が発表した税金の種類を黒板に貼っていく。 ※ 税金の種類のマグネット ○ 児童から出なかった種類も、簡単な説明をしながら黒板に貼っていくことで、様々な種類の税金があることに気付かせる。 ○ 1億円のレプリカを実際に持つことで、57兆円が莫大な金額であることに気付かせる。 ※ 1億円レプリカ

- ・ お年玉で1万円もらったから、5万円。
- ・ 100万円くらいかな。

4 税金が使われている施設について考える。

- 税金が使われている施設と使われていない施設に分けましょう。

【使われている】

- ・ 学校 ・ 市民プール ・ 市民病院
- ・ 消防署 ・ 警察署 ・ 市役所

【使われていない】

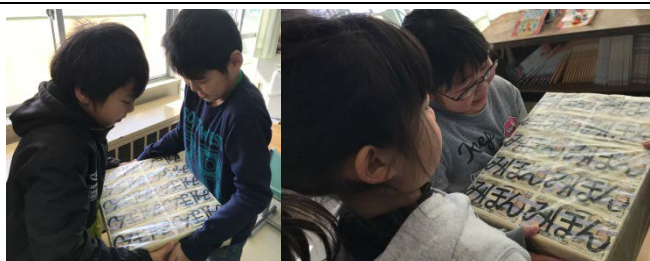
- ・ ココス ・ イオン ・ ジョイフル

5 DVD「マリンとヤマト」を鑑賞する。

- ・ キャラクターがかわいいね。
- ・ 税金がなくなったら大変だね。
- ・ 税金があると、みんなが幸せにくらせるんだね。

6 本時の学習を振り返る。

- 税金がわたしたちの生活の中でどのように使われているか理解することができましたか。
- ・ はい。とても大切なことが分かりました。
- 学習感想を発表しましょう。



- 登米市にある税金が使われている施設の写真や、税金が使われていない施設の写真を児童に見せることで身近なこととして考えることができるようにする。

※ 施設の写真

- 全児童に写真を配り、黒板に仲間分けをして貼らせる。



- DVDを視聴させることで、税金がなくなると国民のくらしが大変なものになることに気付かせる。

※DVD

※テレビ

- 児童の感想を交流させる。
- 税金が大切だと気付いた児童の感想を発表させることで、ほかの児童にも税金の大切さを再確認させる。

・ 大人になったら、きちんと税金を払おうと思います。 ・ 税金がないともしもの時に困ると思いました。 ・ 税金に様々な種類があることを知りました。	
---	--

8 授業後の児童の感想

- 税金は、みんなのお金を集めたもので信号機や橋や道路などのみんなで使うものに使っているお金だと分かりました。もしも税金がなくなると、公園や橋も使えなくなって、交番でも何かをしてもらうときにお金を払わなければいけなくなって困ります。家が火事になってしまったときにも、お金がかかって困ります。大人になったら、税金をたくさん払うようにしたいです。
- 税金は、学校や市民病院、公園や橋、警察署や消防署などに使われていることが分かりました。税金がなくなると、学校で勉強するために1年で82万円くらいかかるし、ほかにも橋や道路を通るのにもお金を払わなければいけなくなることが分かりました。
- 税金がなくなると自分たちが困るので、大切なんだと思いました。ぼくたちは、税金をちゃんと払ってみんなが困らないようにしたいです。
- 税金はみんなのお金であり、大切にしないといけないと思いました。
- 税金は、みんなが使う信号や市民プールなどに使われていることが分かりました。税金がなくなったら、公園はまるでゴミ箱のようになり、道もぼろぼろなのにお金を払って通らなくてはいけなくなってしまうことが分かりました。わたしたちは、みんなのためにお金を貯めて、税金を払うことに協力しなければいけないと思いました。

9 考察

ゲストティーチャーをお招きしての授業後、「税金を払いたいですか。」という質問を児童に再度したところ、授業前は9人の児童が「払いたくない」と回答していたが、全児童が「払いたい」と回答した。この結果や学習感想から、児童は本題材の学習目標を達成したと言える。

本題材を通して児童は、税金に興味をもつことができた。この学習をきっかけに、「租税」について更に興味をもち、将来的には納税の義務をきちんと果たせる人間に育っていくようにしていきたい。

平成29年度 租税教育実践例（第5学年家庭科）

登米市立柳津小学校
教諭 佐藤 育子

1 はじめに

小学校家庭科において租税教育と関連が深いのは、学習指導要領「D 身近な消費生活と環境（1）のA 物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方を考えること」である。

児童の日常の様子から、えんぴつや消しゴムなどの学用品を落としても、自分の物という意識が低く、物を大切にしようとする気持ちがあまり見られないとすることが多い。また、月々のお小遣いをもらっている児童は数名で、自分で買い物をするという経験が少ないという実態がある。

そこで、単元「めざそう買い物名人」を設定し、自分の生活との関わりから、物や金銭の大切さに気付かせ、買い物についての実践的な能力と態度を身に付けさせたいと考えた。

さらに、買い物をするときには消費税が発生することから、税金について理解させ、日常生活の基礎的・基本的な知識を広げさせ、金銭感覚を高めさせたい。

2 単元学習計画

単元名 めざそう買い物名人 （全7時間）

時間	学習のめあて	学習活動
1	○ 生活を支えるお金の大切さを考え、買い物の仕方を見直そう。	○ 日常生活のどのような場面でお金を使っているか話し合う。 ○ 毎日の生活のためにはお金が必要であることを確かめる。 ○ 買い物には消費税が発生することや公共施設の利用から税金に関心をもたせる。 ○ 買い物名人とはどんな人のことか話し合う。
2 本時	○ 消費税などの税金について知り、物や金銭の大切さについて考えよう。	○ 買い物をする際に発生する消費税などの税金について知る。 ○ 税金がどのように使われているかを知る。 ○ 消費税などの身近な税金について知ることで、物や金銭を大切にしようとする。
3 ・ 4	○ 目的に合った計画的な買い物ができるようにしよう。	○ 欲しいものを挙げ、教科書の表や流れ図の矢印に沿って考える。 ○ 欲しいものについて、流れ図に沿って考えた結果を交流し、意見交換をする。 ○ 「買い物の手順」を基に、計画的な買い物の仕方を話し合う。 ○ 目的に合うものを選ぶ観点をまと

		める。
5	○ 目的に合った計画的な買い物ができるようにしよう。	○ 商品を選ぶ手掛かり（情報）を選ぶ。 ○ 商品の表示やマークの意味を知る。 ○ 活動4に沿って、自分はどのノートを選ぶか考えて、理由と結果を交流する。 ○ 買い物の記録や振り返りの大切さを話し合う。
6 ・ 7	○ 買い物名人としてどんな工夫ができるか考えよう。	○ 自分が考える買い物名人とは…。 ○ おみやげなどを買う計画、買った反省、身近な物の選び方、買い方のまとめ。 ○ 物やお金の生かし方。

3 出前授業から

学習過程

	○学習活動 G：ゲストティーチャー・児童の反応	○指導上の留意点 【評価】
つかむ5分	1 本時の学習内容を知る。 どのような税金があるのか、税金はどのように使われているか知り、物やお金の大切さについて考えよう。	○ 子どもたちにも身近な消費税などの税金はどのように使われているか考えさせる。
考える35分	2 ゲストティーチャーの話を聞き、税金について知る。 G 皆さんの知っている税金には何がありますか。 ・消費税 ・自動車税 ・所得税 ・固定資産税 ・酒税 ・たばこ税 3 税金として集められた総額を知る。 G 全部の税金を合わせるとどのくらいの金額になると思いますか。 ・分からない ・たくさん ・何億とか何兆とか？ G 正解は、57兆円です。50種類の税金で57兆円の税金が集められています。 4 1億円のレプリカを実際にもってみる。 G 今日は、1億円のレプリカを持って	○ たくさんの税金があることに気付かせる。 ○ たくさんの種類の税金が集められていることを知り、どのくらいの金額が興味をもたせる。



	きたので、持ってみましょう。 ・思っていたより、重い。  5 自分たちの身近な学校でどのように税金が使われているかを考える。 G みんなの学校も、税金で建てられているんだね。 ・教科書も税金で作られているんだ。	○ 1億円のレプリカを持つことで、実際の金額の大きさをイメージしやすくする。 ○ 税金を身近に感じさせるために、学校の中の物や生活を振り返らせ、具体的に税金の使われ方を理解させる。 【関心・意欲・態度】税金がどのようなことに使われているかに関心をもっている。
振り返る 5分	6 感想を発表する。	○ 消費税などの税金の使われ方などについて知り、物や金銭の大切さに気付かせる。

4 租税教室や税金に関する家庭科の授業の感想

- ・ 買い物をする際にも、よく考えて買うようにして、お金や物を大切にしていこうと思いました。
- ・ 自分も消費税などの税金を払っていてよかったと思いました。
- ・ 消費税などの税金は、自分たちも協力できることだと感じました。
- ・ 税金を何に使っているのかがよく分かり、物だけでなく建物などの公共施設も大切に利用しようと思いました。
- ・ 家族が頑張って働いた税金が、教科書になっていることが分かったので、全ての物を大切にしようと思いました。



5 成果○と課題●

- 登米法人会の方に協力をいただいて、租税教育を実施することができ、専門的な知識と情報、工夫された教材により児童の税に対する関心を高めることができた。
- 身近な税金である消費税も、自分たちの暮らしに役立っていることを知り、金銭や物を大切にしようとする気持ちをもたせることができた。
- 「欲しいから買う」というのではなく、本当に必要かを検討するなど、物を買うことへの考え方に変化が見られた。
- 物や金銭の大切さに気付くことはできたが、児童は、実際に買い物をした経験は少ない。6年生の修学旅行に向けて、計画的に買い物をする経験を積んでいくなど家庭と連携を図っていくことも必要だと考える。

租税教育実践事例（中学校）

登米市立石越中学校
教諭 箱石雄悟

本年度、中学校社会科で租税教育を進めていくにあたり、歴史・地理・公民的分野の年間指導計画上、租税教育に適する題材を見直し、意識的に税に関する内容を盛り込んで授業実践を行った。

下表は、今年度実践を行った題材をまとめたものである。

【租税教育実践を行った題材】

分野	題材名	租税教育に関わる学習内容	指導上の留意点
歴史	奈良時代の人々の暮らし	租庸調など、律令制度のもとで農民に課せられた税について調べ、奈良時代の人々の生活を知る。	古代の租税制度は負担が過重であることを、当時の国家政策としての寺院建立等とも関連させて指導する。
	武士の成長	武士が農民から集めた年貢を荘園領主に納める代わりに土地の支配権を保護されたことを理解する。	土地制度と支配権の関わりを、年貢を通して考えさせる。
	兵農分離と朝鮮侵略	ものさしとますの統一が公平な税負担をめざしたものであることなど、太閤検地の税制改革としての側面に気付く。	耕地面積を測量する様子や検地帳を資料として用いて、関心をもたせる。
	さまざまな身分と暮らし	江戸幕府による農民支配の手立てとして、年貢の徴収や土地売買の禁止、五人組制度などがあったことを理解する。	触書を資料として用い、確実に年貢を納めさせることが幕府にとって重要であったことに気付かせる。
	近代革命の時代	イギリスの2つの革命、アメリカ独立戦争、フランス革命が、いずれも課税問題に端を発したものであることを知り、不公正な税のあり方が国民の不満を大いに高めることに気付く。	アメリカ独立戦争前夜の「代表無くして課税なし」に、植民地の人々のどのような思いが込められているかを考えさせる。 ※アヘン戦争後に清国で起こった「太平天国の乱」も、後に学習する
	開国と不平等条約	日本が関税自主権を喪失した通商条約の学習の際に、「関税」の概要を理解する。	税制を自国で定めることが、主権を守るために重要であることに気付かせる。
	明治維新の三大改革	近代的な租税制度の出発点として地租改正を扱い、その後の富国強兵政策の財政的な基盤として重要であったことを理解する。	年貢から金納に変更したことにより、計画的な財政につながったことを理解させたい。

	立憲制国家の成立	帝国議会の選挙権に納税額による制限が設けられていたことを知る。	直接国税15円以上の価値を、資料をもとに現在の貨幣価値と比較させる。
地理	進むヨーロッパ統合	EUの政策として行っている域内の関税撤廃に関して、関税の概念を簡単に説明する。	自由貿易と保護貿易のねらいをそれぞれ理解させる。
	日本の人口と過疎・過密問題	人口ピラミッドを作成し、少子化と高齢化が進んでいることに気付く。	日本を含む先進国では、少子化と人口減少が今後加速することを資料によって示す。
	自然災害と防災への取組	日本に見られる災害と、その対策を調べる。	災害対策としての施設や被災者救済の財源として税金が使われていることにふれる。
公民	「公共の福祉」と国民の義務	日本国憲法が、さまざまな権利を保障しているとともに納税の義務などの三大義務を課していることを理解する。	国家を形成している重要な柱として、国民の納税があることを強調する。
	私たちの生活と地方自治	身近な政治である地方の政治も、国政と同様に所得の再分配の側面があることを理解する。	「市政に期待すること」の資料から、政策のほとんどが支出を伴うものであり、それが納税によって支えられていることに気付かせる。
	地方財政の仕組みと課題	地方財政の状況を調べるとともに、地方分権や財政健全化を進めるためにはどうしたらよいか、自分の考えをもつ。	地方分権の意義をつかませ、地方財源を増やすためになされている試みを紹介する。
	私たちの生活と財政	租税の大まかな仕組みや特徴を理解し、税負担者として歳入や歳出の状況、問題点に関心をもつ。	提供された資料や教材を活用して、租税制度への関心を高め、納税者としての意識をもたせたい。
	政府の役割と財政の課題	社会資本整備と公共サービスの充実のために、安定した租税制度が大切であることを理解する。	公債についての学習を通して、厳しい財政状況から、税金の適切な使い方について考えさせたい。
	社会保障の仕組み	社会保障の基本的な考え方と少子高齢社会のもとでの社会保障制度のあり方を考える。	国民福祉の充実のために、社会保障関係費が歳出の中で大きな比率を占めていることを示す。
	少子高齢化と財政	少子高齢化が財政にどのような影響を及ぼすか、社会保障と財政の在り方はどうあるべきかを考える。	北欧型の高福祉高負担社会と比較させる。

平成29年度 租税教育実践事例(第3学年)

登米市立津山中学校

主幹教諭 白石 善郎

1 単元名 「国民生活と福祉」

2 単元の目標

- ・国民生活と福祉の向上を図るうえでの国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について、租税の意義と役割、納税の義務を通して理解させる。
- ・社会保障や経済に関して、資料の活用を図り、自分たちの考えをまとめ、発表させる。

3 単元について

現代の日本は国民主権であり、全ての国政は国民のために行われる。そして、人権の保障もなされている。これらの日本の根幹となる部分を維持していくためには、国民それぞれが協力し合わなければならない。その最も重要な部分として、社会資本やサービスを充実させるために必要となるものが税である。言い換えれば、税によって国民の生活が守られている。

そこで、豊かな社会を実現していくためには国民が協力して資金を出し合うことが必要であり、そのために税が国民の義務となっていることを理解させたい。そして、社会を支えるのは国民一人一人であることを確認させたい。さらに、このことによって納税だけではなく、その税の使途を決定する内閣や国会が国民の意思を尊重しなければならないことに気づかせたい。

4 指導計画(6時間扱い、本時1／6)

学習時間	題材名
第1時	政府の経済活動と租税(本時)
第2時	政府の役割
第3時	社会保障のしくみ
第4時	少子高齢化と財政
第5時	世界の中の日本経済
第6時	学習の補充と発展

5 本時の指導

(1)題材名 「政府の経済活動と租税」

(2)ねらい

- ・身近な事例を通して、税に関する関心を高めることができる。(関心・意欲)
- ・税の必要性について学習を通して理解することができる。(知識・理解)

(3)指導にあたって

国民生活を円滑に豊にしていくためには税が不可欠であることを自覚させたい。そのため、実際に税を用いて作られている施設や設備などをあげさせることによって身近なものとしてとらえさせたい。そこから、義務化する必要性について考えさせたい。

(4)評価

- ・身近な事例を通して、税に関する関心を高めることができたか。(関心・意欲)
- ・税の必要性について学習を通して理解することができたか。(知識・理解)

(5)指導過程

	学習活動と予想される生徒の反応	教師の支援
導入	1 登米市内でみんなのためにあるものをあげる。 ・公園，学校，道路，交番，消防署，コンビニ，スーパー，幼稚園など 2 みんなのためにあるものは誰が経営しているか考える。 ・国，市，社長など	・なるべく多くの意見をあげさせる。登校するまでの間にあるものなどを思い起こさせる。  ・社会資本や公共サービスのものについて考えさせる。 ・市のホームページを利用して確認する。
	3 国民全体のために使うお金はどのように準備すればよいか考える。 ・金持ちが出す，税として集める，必要な人が出す，国会議員が出すなど 4 国民生活に欠かせない税の種類を確認する。 ・直接税と間接税の違いや国家予算の税収を知る。 5 年収に差がある場合に所得税の課税割合はどうしたらよいか考える。 ・同じ割合，金持ちは多く払う，少ない人は払わなくていいなど 6 累進課税制度について確認する。	・みんなが必要なものはみんなが出しあわなければならないことに気付かせる。教科書が無償であることなどにも触れたい。   ・8%の消費税も全国から集まれば大きな額になることなどに気付かせたい。 ・年収に差があった場合に生活に必要な費用をどうしたらよいかを気づかせる。 ・累進課税の割合はプリントで配布する。

	7 国民から集めた税をどのように使っていったらよいか考える。 みんなのため、困っている人に使う、無駄にしてほしくないなど	自分たちも消費税などで納税している負担者であることを自覚させて、考えさせる。	
終 結	8 税の使い方についての意見を発表する。 質問や反対意見があれば発表する。 9 次時の予告	なるべく多くの意見を取り上げる。	

6 成果と課題

【成果】

税に対する意識として以前よりも必要性を強く感じたようである。特に社会資本で自分たちが知っているものよりもはるかに多くのものが税によって成り立っていることに気付いたようである。

また、自分たちが納めている消費税のみならず、家庭内でも親や祖父母、兄弟などが納めている所得税やその他の税についてもどのような使われ方をしているかという関心が出てきたようである。

授業後にも税に関する質問をする生徒がいるなど税への関心や詳しく知りたいという欲求が生まれている。

【課題】

税に対しての関心を持ち、より深く学びたいという生徒がいる一方で、依然として税は「取られる」ものという意識で悪いイメージを持っている生徒がいることも事実である。今後の授業で引き続き、必要なものであることを考えさせていきたい。

また、今回の実践では教師主導の授業で行ったが、機会があれば税務署による租税教室の利用も今後行っていきたい。また、ビデオやホームページなどもタブレットの導入に伴い、生徒自身が活用すればさらに効果的に身近に感じさせることができたのではないと思う。

今後は税の行方に関心を持たせながら将来の社会資本を考えさせながら、財政政策について調べさせたい。

平成29年度 租税教育推進協力者

(順不同)

所 属	担 任 ・ 担 当	氏 名
新 田 小 学 校	6学年	高 橋 慎 教諭
米 谷 小 学 校	6学年	阿 部 亘 平 教諭
石 森 小 学 校	6学年	高 橋 寛 教諭
浅 水 小 学 校	6学年	佐 藤 眞 紀 教諭
西 郷 小 学 校	3学年	佐々木 芽衣子 教諭
柳 津 小 学 校	5学年	佐 藤 育 子 教諭
石 越 中 学 校	教務主任	箱 石 雄 悟 教諭
津 山 中 学 校	主幹教諭	白 石 善 郎 教諭

平成 29 年度 登米市租税教育推進協議会構成員名簿

(敬称略)

役職名	所 属	氏 名
会長	登 米 市 教 育 委 員 会 教 育 長	佐 藤 信 男
幹事	宮城県東部教育事務所登米地域事務所 所長	前 田 正
幹事	登 米 市 小 学 校 長 会 会 長	狩 野 茂
幹事	宮城県東部県税事務所登米地域事務所 所長	阿 部 昇
幹事	登 米 市 総 務 部 次 長 兼 税 務 課 長	伊 藤 秀 樹
幹事	佐 沼 税 務 署 署 長	鈴 木 啓 之
	県北高等学校長会 登米地区代表	小野寺 清 隆
	登 米 市 中 学 校 長 会 会 長	金 野 勉
	登 米 市 教 育 研 究 所 所 長	萩 田 隆 児
	登米市教育委員会 生涯学習課 課長	佐 藤 嘉 浩
	登米市納税貯蓄組合連合会 会長	及 川 俊
	公益社団法人登米法人会 会長	渡 邊 光 悦
	東北税理士会宮城県北支部佐沼部会 部会長	及 川 富 男

歴代租税教育推進協力者

昭和61年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
南 方 町	西 郷 小	2 学 年	鈴 木 陽 子 教諭
登 米 町	登 米 小	2 学 年	長 谷 信 一 教諭
米 山 町	善 王 寺 小	3 学 年	熊 谷 仁 一 教諭
迫 町	北 方 小	4 学 年	豊 原 仁 教諭
南 方 町	南 方 小	6 学 年	富 士 原 啓 子 教諭
迫 町	佐 沼 小	6 学 年	畠 山 信 弘 教諭
石 越 町	石 越 中	社 会 科	菊 田 郁 朗 教諭
東 和 町	東 和 中	社 会 科	小 野 寺 達 郎 教諭

昭和62年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
豊 里 町	豊 里 小	3 学 年	今 野 文 彦 教諭
米 山 町	中 津 山 小	4 学 年	伊 東 博 敏 教諭
南 方 町	西 郷 小	4 学 年	菅 原 満 夫 教諭
登 米 町	登 米 小	5 学 年	菅 原 純 一 教諭
南 方 町	南 方 小	5 学 年	成 澤 淑 子 教諭
迫 町	北 方 小	6 学 年	中 津 川 良 子 教諭
登 米 町	登 米 中	社 会 科	鈴 木 幹 雄 教諭
豊 里 町	豊 里 中	社 会 科	沼 田 芳 孝 教諭

昭和63年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫 町	北 方 小	1 学 年	岩 渕 安 弘 教諭
米 山 町	桜 岡 小	2 学 年	海 野 達 兄 教諭
登 米 町	登 米 小	3 学 年	千 葉 直 子 教諭
迫 町	佐 沼 小	4 学 年	飯 塚 豊 教諭
東 和 町	嵯 峨 立 小	5 学 年	佐 藤 教 子 教諭
東 和 町	米 谷 小	6 学 年	及 川 茂 法 教諭
米 山 町	米 山 中	社 会 科	及 川 喬 教諭
南 方 町	南 方 中	社 会 科	佐 藤 徳 明 教諭

平成元年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
中 田 町	石 森 小	2 学 年	畠 山 蓉 子 教諭
南 方 町	南 方 小	3 学 年	小 野 寺 薦 教諭
石 越 町	石 越 小	3 学 年	石 山 順 教諭
迫 町	新 田 第 一 小	5 学 年	石 合 克 行 教諭
米 山 町	米 岡 小	5 学 年	日 野 峻 教諭
東 和 町	米 谷 小	6 学 年	桜 井 浩 志 教諭
迫 町	佐 沼 中	社 会 科	菊 池 信 夫 教諭
中 田 町	中 田 中	社 会 科	吉 野 幸 信 教諭

歴代租税教育推進協力者

平成2年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	森小	5 学年	菅原 一子 教諭
中田町	石森小	6 学年	高橋 節子 教諭
南方町	南方小	5 学年	小野 寺 薫 教諭
石越町	石越小	1 学年	石 山 順 教諭
迫町	北方小	4 学年	石合 克行 教諭
米山町	米岡小	5 学年	日 野 峻 教諭
迫町	新田中	社会科	千葉 忠徳 教諭
石越町	石越中	社会科	二階 堂 和夫 教諭

平成3年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	森小	3 学年	菅原 一子 教諭
東和町	錦織小	4 学年	及川 晃史 教諭
東和町	米川小	5 学年	小野 寺 夕へ子 教諭
中田町	石森小	5 学年	高橋 節子 教諭
中田町	浅水小	5 学年	末永 澄子 教諭
中田町	加賀野小	6 学年	佐藤 美恵 教諭
登米町	登米中	社会科	矢内 昭裕 教諭
東和町	東和中	社会科	小野 寺 達郎 教諭

平成4年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	佐沼小	3 学年	大場 しの 教諭
迫町	新田第二小	4 学年	高橋 眞理 教諭
南方町	西郷小	6 学年	齋藤 裕之 教諭
中田町	浅水小	3 学年	末永 澄子 教諭
豊里町	豊里小	5 学年	熊坂 昭子 教諭
東和町	錦織小	6 学年	及川 晃史 教諭
豊里町	豊里中	社会科	畠山 俊彦 教諭
米山町	米山中	社会科	小野 敦史 教諭

平成5年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	新田第一小	5 学年	菊池 敏一 教諭
迫町	新田第二小	4 学年	高橋 眞理 教諭
豊里町	豊里小	6 学年	熊谷 昭子 教諭
中田町	宝江小	6 学年	須藤 勝子 教諭
米山町	善王寺小	4 学年	太田 弥 教諭
南方町	東郷小	5 学年	千葉 一彦 教諭
中田町	中田中	社会科	畠山 俊彦 教諭
南方町	南方中	社会科	佐々木 由美 教諭

歴代租税教育推進協力者

平成6年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
南 方 町	東 郷 小	6 学 年	千 葉 一 彦 教諭
石 越 町	石 越 小	6 学 年	高 橋 節 子 教諭
中 田 町	桜 場 小	6 学 年	菅 原 啓 士 教諭
中 田 町	新 井 田 小	6 学 年	森 田 久 教諭
東 和 町	鱒 淵 小	5 学 年	佐 藤 孝 文 教諭
迫 町	北 方 小	6 学 年	高 橋 純 教諭
石 越 町	石 越 中	社 会 科	矢 内 昭 裕 教諭
迫 町	新 田 中	社 会 科	中 津 川 英 樹 教諭

平成7年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫 町	佐 沼 小	6 学 年	庄 子 裕 教諭
中 田 町	宝 江 小	6 学 年	鈴 木 久 美 教諭
東 和 町	嵯 峨 立 小	6 学 年	須 藤 勝 子 教諭
登 米 町	登 米 小	5 学 年	沼 倉 弘 子 教諭
米 山 町	中 津 山 小	5 学 年	門 田 洋 之 教諭
豊 里 町	豊 里 小	5 学 年	長 南 忠 男 教諭
米 山 町	米 山 中	社 会 科	小 野 寺 文 晃 教諭
中 田 町	中 田 中	社 会 科	佐 々 木 正 生 教諭

平成8年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫 町	新田第一小	6 学 年	清 和 幸 彦 教諭
登 米 町	登 米 小	6 学 年	沼 倉 弘 子 教諭
東 和 町	米 谷 小	6 学 年	渋谷 雄 二 郎 教諭
中 田 町	石 森 小	6 学 年	高 橋 晋 教諭
豊 里 町	豊 里 小	5 学 年	鈴 木 有 教諭
米 山 町	中 津 山 小	6 学 年	門 田 洋 之 教諭
石 越 町	石 越 小	T T	佐 藤 浩 子 教諭
南 方 町	西 郷 小	5 学 年	小 野 寺 夕 へ 子 教諭
迫 町	佐 沼 中	社 会 科	大 場 正 浩 教諭
豊 里 町	豊 里 中	社 会 科	渡 邊 淳 一 教諭

平成9年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫 町	新田第一小	4 学 年	清 和 幸 彦 教諭
登 米 町	登 米 小	6 学 年	寺 川 雅 洋 教諭
東 和 町	錦 織 小	6 学 年	石 川 克 行 教諭
中 田 町	上沼中央小	6 学 年	皆 川 寛 教諭
豊 里 町	豊 里 小	5 学 年	長 南 忠 男 教諭
米 山 町	中 津 山 小	6 学 年	後 藤 俊 朗 教諭
石 越 町	石 越 小	6 学 年	高 橋 敏 子 教諭
南 方 町	西 郷 小	5 学 年	佐 藤 和 枝 教諭
東 和 町	東 和 中	社 会 科	佐 々 木 正 生 教諭
南 方 町	南 方 中	社 会 科	藤 浦 悟 教諭

歴代租税教育推進協力者

平成10年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	新田第二小	6 学 年	菅 原 博 教諭
登米町	登米小	6 学 年	佐々木 勝 江 教諭
東和町	嵯峨立小	6 学 年	高 橋 秀 憲 教諭
中田町	上沼小	5 学 年	鈴 木 典 幸 教諭
豊里町	豊里小	5 学 年	水 沼 勝 教諭
米山町	桜岡小	6 学 年	菅 原 善 彦 教諭
石越町	石越小	5 学 年	熱 海 宏 明 教諭
南方町	南方小	6 学 年	佐 藤 秀 明 教諭
登米町	講 師	社 会 科	三 浦 秀 治 教諭
石越町	石越中	社 会 科	山 家 英 樹 教諭

平成11年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	新田第二小	3 学 年	菅 原 博 教諭
登米町	登米小	6 学 年	萩 田 志 保 子 教諭
東和町	米谷小	5 学 年	鈴 木 真 理 教諭
中田町	浅水小	5 学 年	佐 藤 教 子 教諭
豊里町	豊里小	5 学 年	兵 藤 清 美 教諭
米山町	中津山小	6 学 年	佐 藤 勉 教諭
石越町	石越小	5 学 年	桜 井 ひ ろ み 教諭
南方町	東郷小	5 学 年	熊 谷 俊 子 教諭
迫町	新田中	社 会 科	中 津 川 英 樹 教諭
米山町	米山中	社 会 科	石 田 康 之 教諭

平成12年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	北方小	T T	岩 渕 安 弘 教諭
登米町	登米小	6 学 年	熱 海 宏 明 教諭
東和町	錦織小	5 学 年	菅 原 善 彦 教諭
中田町	桜場小	5 学 年	佐 藤 美 紀 子 教諭
豊里町	豊里小	5 学 年	後 藤 智 子 教諭
米山町	米岡小	5 学 年	秀 由 佳 教諭
石越町	石越小	5 学 年	野 里 恵 二 教諭
南方町	西郷小	5 学 年	笹 原 明 美 教諭
迫町	佐沼中	社 会 科	大 場 正 浩 教諭
中田町	中田中	社 会 科	箱 石 雄 悟 教諭

平成13年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	森 小	4 学 年	金 野 ゆ か り 教諭
登米町	登米小	6 学 年	飯 塚 市 代 教諭
東和町	鱒淵小	6 学 年	中 井 充 夫 教諭
中田町	石森小	5 学 年	岩 渕 公 一 教諭
豊里町	豊里小	5 学 年	矢 野 美 智 代 教諭
米山町	善王寺小	5 学 年	遠 藤 聡 子 教諭
石越町	石越小	5 学 年	佐 藤 眞 紀 教諭
南方町	南方小	6 学 年	石 井 大 志 教諭
東和町	東和中	社 会 科	高 橋 和 芳 教諭
豊里町	豊里中	社 会 科	矢 内 昭 裕 教諭

歴代租税教育推進協力者

平成14年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	森小	6 学 年	千葉 ゆかり 教諭
登米町	登米小	6 学 年	後藤 俊朗 教諭
東和町	米川小	5 学 年	佐藤 建雄 教諭
中田町	加賀野小	5 学 年	渡邊 宏紀 教諭
豊里町	豊里小	5 学 年	伊藤 悦子 教諭
米山町	桜岡小	6 学 年	蓬田 昭彦 教諭
石越町	石越小	5 学 年	庄司 紀子 教諭
南方町	東郷小	5 学 年	千葉 裕子 教諭
南方町	講師	社会科	小野寺 彰哉 教諭
登米町	登米中	社会科	藤浦 悟 教諭

平成15年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	新田第二小	5 学 年	門田 りえ 教諭
登米町	登米小	5 学 年	三浦 教順 教諭
東和町	嵯峨立小	5 学 年	加瀬 谷武敏 教諭
中田町	新井田小	6 学 年	高橋 広満 教諭
豊里町	豊里小	5 学 年	千葉 浩幸 教諭
米山町	中津山小	5 学 年	村上 喜久美 教諭
石越町	石越小	5 学 年	山口 沙織 教諭
南方町	西郷小	5 学 年	遠藤 恵 教諭
迫町	新田中	社会科	山家 英樹 教諭
石越町	石越中	社会科	中津川 英樹 教諭

平成16年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
迫町	北方小	6 学 年	佐藤 浩人 教諭
登米町	登米小	5 学 年	佐藤 裕 教諭
東和町	米谷小	6 学 年	佐藤 康 教諭
中田町	宝江小	6 学 年	佐藤 祥子 教諭
豊里町	豊里小	5 学 年	佐藤 裕志 教諭
米山町	米岡小	6 学 年	阿部 孝紀 教諭
石越町	石越小	5 学 年	高橋 美至 教諭
南方町	南方小	5 学 年	佐々木 和枝 教諭
米山町	米山中	社会科	箱石 雄悟 教諭
中田町	中田中	社会科	吉田 淳子 教諭

平成17年度

(順不同)

所	属	担任・担当	氏名
佐沼小		6 学 年	千葉 克憲 教諭
錦織小		5 学 年	佐藤 理英 教諭
石森小		5 学 年	鹿野 俊洋 教諭
加賀野小		6 学 年	鈴木 周 教諭
中津山小		5 学 年	伊藤 伸子 教諭
桜岡小		6 学 年	鈴木 明美 教諭
東郷小		5 学 年	千葉 裕子 教諭
柳津小		6 学 年	加藤 浩二 教諭
佐沼中		社会科	伊藤 志穂 教諭
豊里中		社会科	寺内 篤 教諭

歴代租税教育推進協力者

平成18年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
新 田 第 一 小	6 学 年	秋 葉 徹 教諭
嵯 峨 立 小	5・6 学 年	渡 邊 宏 紀 教諭
上 沼 小	6 学 年	熊 谷 真 理 子 教諭
浅 水 小	6 学 年	鈴 木 勝 彦 教諭
豊 里 小	6 学 年	寺 内 篤 教諭
善 王 寺 小	5・6 学 年	菅 原 満 夫 教諭
西 郷 小	5 学 年	千 葉 洋 子 教諭
横 山 小	5 学 年	佐 藤 秀 俊 教諭
東 和 中	社 会 科	高 橋 和 芳 教諭
南 方 中	社 会 科	菅 原 栄 治 教諭

平成19年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
新 田 第 二 小	6 学 年	永 倉 郁 裕 教諭
米 川 小	6 学 年	萩 原 達 也 教諭
鱒 淵 小	3・4 学 年	長 南 忠 男 教諭
宝 江 小	6 学 年	佐 藤 朱 美 教諭
中 津 山 小	6 学 年	米 島 久 智 教諭
米 岡 小	6 学 年	三 浦 弘 義 教諭
石 越 小	6 学 年	高 橋 聡 子 教諭
南 方 小	6 学 年	鈴 木 久 美 教諭
登 米 中	社 会 科	藤 浦 悟 教諭
津 山 中	社 会 科	飯 川 弘 芳 教諭

平成20年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
北 方 小	6 学 年	菅 原 善 彦 教諭
森 小	特 別 支 援	芳 賀 明 洋 教諭
桜 岡 小	6 学 年	千 葉 高 教諭
善 王 寺 小	6 学 年	菅 原 満 夫 教諭
中 津 山 小	6 学 年	村 上 喜 久 美 教諭
米 谷 小	5 学 年	佐 々 木 里 香 教諭
石 森 小	5 学 年	澁 谷 智 樹 教諭
加 賀 野 小	6 学 年	大 友 厚 子 教諭
新 田 中	社 会 科	箱 石 雄 悟 教諭
石 越 中	社 会 科	田 口 勇 介 教諭

平成21年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
佐 沼 小	6 学 年	千 葉 恵 理 子 教諭
森 小	5 学 年	鈴 木 淳 教諭
錦 織 小	6 学 年	芳 賀 明 洋 教諭
浅 水 小	6 学 年	小 野 寺 博 美 教諭
米 岡 小	6 学 年	佐 藤 英 明 教諭
南 方 小	6 学 年	高 橋 敏 子 教諭
柳 津 小	6 学 年	菅 原 満 夫 教諭
佐 沼 中	社 会 科	小 山 紘 明 教諭
米 山 中	社 会 科	守 康 幸 教諭

歴代租税教育推進協力者

平成22年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
北 方 小	6 学 年	皆 川 寛 教諭
米 谷 小	社会科主任	小 畠 宏 夫 教諭
石 森 小	5 学 年	澁 谷 智 樹 教諭
上 沼 小	6 学 年	佐 藤 美 紀 子 教諭
中 津 山 小	6 学 年	伊 藤 秀 樹 教諭
石 越 小	6 学 年	幡 江 真 穂 教諭
東 郷 小	6 学 年	鈴 木 有 教諭
横 山 小	6 学 年	及 川 信 太 郎 教諭
豊 里 中	社 会 科	井 上 鮎 香 教諭
南 方 中	社 会 科	富 安 隆 文 教諭

平成23年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
新 田 小	6 学 年	箱 石 雄 悟 教諭
登 米 小	6 学 年	伊 藤 敬 教諭
米 川 小	6 学 年	渡 邊 宏 紀 教諭
宝 江 小	6 学 年	進 藤 俊 博 教諭
豊 里 小	6 学 年	小 野 寺 美 和 教諭
米 山 東 小	6 学 年	五 十 嵐 裕 子 教諭
西 郷 小	6 学 年	長 南 忠 男 教諭
柳 津 小	5 学 年	菅 原 満 夫 教諭
中 田 中	社 会 科	中 津 川 英 樹 教諭
津 山 中	社 会 科	飯 川 弘 芳 教諭

平成24年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
佐 沼 小	6 学 年	関 根 大 悟 教諭
森 小	6 学 年	後 藤 智 子 教諭
錦 織 小	2 学 年	芳 賀 明 洋 教諭
加 賀 野 小	6 学 年	加 藤 め ぐ み 教諭
浅 水 小	6 学 年	山 田 紀 子 教諭
米 岡 小	6 学 年	佐 藤 正 彦 教諭
南 方 小	4 学 年	大 槻 征 玄 教諭
東 郷 小	6 学 年	後 藤 大 典 教諭
東 和 中	社 会 科	藤 浦 悟 教諭
石 越 中	社 会 科	伊 藤 圭 講師

平成25年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
北 方 小	6 学 年	佐 藤 純 教諭
米 谷 小	6 学 年	阿 部 孝 紀 教諭
石 森 小	5 学 年	千 葉 裕 子 教諭
上 沼 小	6 学 年	佐 藤 勉 教諭
中 津 山 小	5 学 年	菅 原 真 理 教諭
石 越 小	6 学 年	門 田 洋 之 教諭
西 郷 小	6 学 年	佐 藤 眞 紀 教諭
横 山 小	教 務 主 任	鈴 木 明 美 教諭
登 米 中	社 会 科	遠 藤 孝 講師
米 山 中	社 会 科	清 水 裕 治 教諭

歴代租税教育推進協力者

平成26年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
新 田 小	6 学 年	鈴 木 健 太 郎 教諭
登 米 小	6 学 年	伊 藤 敬 教諭
米 川 小	6 学 年	高 橋 寛 教諭
宝 江 小	6 学 年	鈴 木 真 亀 子 教諭
豊 里 小	6 学 年	千 葉 恵 理 子 教諭
米 山 東 小	6 学 年	五 十 嵐 裕 子 教諭
南 方 小	社 会 科	後 藤 善 史 教頭
柳 津 小	教 務 主 任	菅 原 満 夫 教諭
新 田 中	社 会 科	箱 石 雄 悟 教諭
豊 里 中	社 会 科	中 津 川 英 樹 教諭

平成27年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
佐 沼 小	6 学 年	佐 々 木 理 教諭
錦 織 小	教 務 主 任	岩 淵 安 弘 教諭
加 賀 野 小	6 学 年	小 幡 秀 明 教諭
米 岡 小	6 学 年	佐 藤 智 之 教諭
石 越 小	6 学 年	門 田 洋 之 教諭
東 郷 小	6 学 年	金 野 ゆ か り 教諭
佐 沼 中	社 会 科	及 川 正 生 教諭
中 田 中	社 会 科	白 石 善 郎 教諭

平成28年度

(順不同)

所 属	担任・担当	氏 名
北 方 小	6 学 年	佐 藤 純 教諭
米 川 小	6 学 年	佐 藤 理 英 教諭
上 沼 小	6 学 年	佐 藤 秀 明 教諭
中 津 山 小	6 学 年	鈴 木 周 一 教諭
南 方 小	6 学 年	佐 藤 ゆ か り 教諭
横 山 小	教 務 主 任	浅 野 克 樹 教諭
東 和 中	社 会 科	林 佳 舗 講師
南 方 中	社 会 科	鈴 木 一 郎 教諭

平成 30 年 3 月

発行者 登米市租税教育推進協議会

租税教育用教材・資料・DVD 等に関するご意見、ご要望を下記までお寄せください。

佐沼税務署 総務課（事務局） （0220）22－2501